

## 特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人

河宮 治

様

あて名

〒 540-0001

大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号IMPビル  
青山特許事務所Written Opinion of  
the International  
Searching AuthorityPCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]発送日  
(日.月.年)

07.12.2004

出願人又は代理人  
の書類記号

664731

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2004/015811

国際出願日

(日.月.年)

26.10.2004

優先日

(日.月.年)

30.10.2003

国際特許分類 (IPC) Int. Cl.

H04H

1/00

H04B

1/06

H04J

3/00

H04N

5/44

出願人 (氏名又は名称)

松下電器産業株式会社

## 1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見

## 2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

## 3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

18.11.2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

川口 貴裕

5J

3055

電話番号 03-3581-1101 内線 3535

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

外国方式

## 第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表  
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面  
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる  
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された  
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-15	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲	4, 5, 8, 9	有 無
	請求の範囲	1-3, 6, 7, 10-15	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-15	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

請求の範囲 1, 3, 6, 14, 15

文献1: EP 1337071 A2 (Nokia Corporation)

2003.08.20, 第0009段落, 第0015-0016段落,  
第0023段落, 第1図, 第2図

には、パケットセット (19) およびパケットセットのコピー (23) から、それぞれ、オリジナルバースト (22) およびコピーバースト (25) を生成するバーストジェネレータ (20) を具備した伝送装置が記載されている。

文献2: JP 2002-10225 A (ソニー株式会社)

2002.01.11, 第0004段落, 第0018段落,  
第0021段落, 第0037-0040段落, 第3図, 第4図

には、配信装置 (2) が、繰り返しデータが伝送されているストリームを配信し、受信装置 (3) が、配信されたストリームを受信するシステムにおいて、受信装置 (3) のユーザが、ザッピング (第0004段落) を行って選局する際、選局から初期画像の表示までの時間を短くすることを目的として (第0018段落)、

配信装置 (2) が、繰り返し伝送されているセカンダリデータエレメンタリストリーム (304, 305) と、当該セカンダリデータエレメンタリストリーム (304, 305) のデータの一部を含むスタートアップエレメンタリストリーム (301, 302, 303) とを伝送する (第3図) 事項、ならびに、受信装置 (3) が、選局指示入力を受けると前記スタートアップストリーム (301, 302, 303) に含まれる初期画像データを読み込んで表示し (第0039段落ならびに第4図のステップS403およびステップS404)、その後、前記セカンダリストリーム (304, 305) に含まれるメイン画像データを読み込まれたら、それを表示する (第0040段落ならびに第4図のステップS406およびステップS407) 事項が記載されている。

文献2には、また、ユーザが選局をしてからスタートアップエレメンタリストリームが受信されるまでは、選局前のテレビ画像を表示させる技術が記載されている (第7頁左欄第43行-同頁右欄第4行)。

(補充欄へ続く)

## 第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付けについての意見を次に示す。

1. 以下に示すとおり、この国際出願の請求の範囲は明細書により十分な裏付けをされていない。

1. 1. 請求の範囲5は、ザッピングモードにおいて操作に使用されたボタンの種類に応じて、バッファの制御を異ならせるあらゆる態様を包含するものであるが、その一方で、明細書(第0110-0111段落)には、特定の2種類のボタンに応じた、特定の2種類のバッファ制御が開示されているだけであるから、明細書による十分な裏付けを欠いている。

請求の範囲5は、明細書により十分な裏付けを欠いているから、明細書第0110-0111段落に具体的に記載されている、特定の2種類のボタンに応じた、特定の2種類のバッファ制御を行う受信装置について、本見解書を作成した。

1. 2. 請求の範囲9には、受信装置が「同一サービスについて、第1のストリームの再生時刻情報と第2のストリームの再生時刻情報との差を求め」る事項が記載されているにも関わらず、明細書に開示された発明において、そのような差を求めているのは伝送装置であるから、請求の範囲9は、明細書による十分な裏付けを欠いている。

請求の範囲9は、明細書により十分な裏付けを欠いているから、明細書に記載されている、伝送装置から伝送された、第1のストリームの再生時刻情報と第2のストリームの再生時刻情報との差を示した情報に基づいて、第1のストリームの再生時刻を補正する受信装置について、本見解書を作成した。

2. 以下に示すとおり、この出願の請求の範囲の記載が不明瞭である。

請求の範囲11の「前記第2のストリームを、前記第1のストリーム内のバーストデータを介して搬送する」なる記載は、請求の範囲11が引用している請求の範囲1の「各サービスのコンテンツを搬送するパケットをサービスに必要な伝送速度に準じた速度で連続的に送信する第2のストリーム」なる記載と矛盾する。

3. 以下に示すとおり、この出願の明細書の記載が不明瞭である。

明細書第0153段落に記載された電源オンのタイミングと、図18に示された電源オンのタイミングが一致していない。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

繰り返しデータを伝送する文献1において、文献2に記載された、ザッピング用のストリームを伝送することによりザッピング時に選局から表示までのレスポンスタイムを短くする技術を適用することは、当業者であれば容易になし得るものである。

よって、請求の範囲1, 3, 6, 14および15は、文献1および2により、進歩性を有しない。

## 請求の範囲2, 10

文献3: WO 2003/073753 A1 (MATSUSHITA ELECTRIC INDUSTRIAL CO.)  
2003.09.04, 明細書第1頁第23行-第2頁第10行,  
同第13頁第14-23行, 同第14頁第14行-第15頁第7行,  
同第15頁第11-23行, 同第29頁第22行-第31頁第11行,  
同第34頁第12行-第35頁第2行, 第6図, 第7図

& J P 2003-324711 A, 第0002段落, 第0039段落,  
第0043-0044段落, 第0046段落, 第0097-0103段落,  
第0116-0117段落, 第6図, 第7図

には、送信装置(106)が、ユーザがザッピングを行ったときに画面に表示するザッピングデータを、番組データとともに、受信装置(111)に送信する事項、および、前記ザッピングデータの情報量は、前記番組データのそれよりも少ない事項が記載されている。

文献3には、また、ザッピングデータの例として、スチルイメージ(第13頁第18-19行)や、ボイスデータ(第13頁第21行)が挙げられている。

ザッピング時に表示するデータとして、文献3に記載されたザッピングデータを採用することは、当業者であれば容易になし得るものである。

よって、請求の範囲2および10は、文献1-3により、進歩性を有しない。

## 請求の範囲7

文献1には、また、受信機が、受信したflow\_labelすなわちオフセット(26)に基づいて、シャットダウンおよびパワーアップを制御する事項が記載されている(第0023段落)。

受信機のシャットダウンおよびパワーアップを制御するために、どのような情報を、どのストリームに含ませて配信するかは、当業者が個々のシステムに応じて適切に設計すべきものであり、請求の範囲7のように設計することは当業者にとって容易になし得るものである。

よって、請求の範囲7は、文献1および2により、進歩性を有しない。

(更なる補充欄へ続く)

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

## 請求の範囲 1 1

文献 3 には、サーバが、ブロードキャストあるいはマルチキャスト機能（第 15 頁第 2 行）を用いて、セルラーホン（第 14 頁第 16 - 17 行）に番組を配信するシステムにおいて、複数の番組に関する情報を含むザッピングデータ（第 5 A 図）のパケットを、番組データのパケットに挿入して配信する事項が記載されている（第 29 頁第 2 行 - 第 31 頁第 1 行、第 6 図）。

セルラーホンの消費電力を少なくするという課題は、当業者にとって自明の課題であるから、セルラーホンに関する文献 3 に、当該自明の課題を解決するために、文献 1 に記載された省電力のための技術を適用して、番組データとザッピングデータをバースト伝送することは、当業者であれば容易になし得るものである。

よって、請求の範囲 1 1 は、文献 1 - 3 により、進歩性を有しない。

## 請求の範囲 1 2

文献 3 には、また、受信装置（111）が、選択されたチャンネルの番組データを受信していない期間において、現在放送されている全チャンネルのザッピングデータを受信して蓄積する事項が記載されている（第 34 頁第 12 行 - 第 35 頁第 2 行、第 7 図）。

当業者にとって、選局から表示までのレスポンスタイムを短くするためにユーザによって選択されていないサービスのザッピングデータを蓄積することは、文献 3 に基づいて容易になし得るものである。

よって、請求の範囲 1 2 は、文献 1 - 3 により、進歩性を有しない。

## 請求の範囲 1 3

文献 4：JP 2003-115808 A（ソニー株式会社）

2003.04.18, 第 0019 - 0022 段落, 第 2 図, 第 3 図  
には、PSI の PMT が、トランスポートストリームあるいはエレメンタリストリームに含まれる事項が記載されている。

文献 4 に示されているとおり、選局制御を行うためのデータをストリームに含ませて伝送する技術は、当業者の間でよく知られた技術であり、このような技術をザッピングを行う際の選局を制御する発明に適用することは、当業者であれば容易になし得るものである。

よって、請求の範囲 1 3 は、文献 1, 2 および 4 により、進歩性を有しない。

（更なる補充欄へ続く）

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

請求の範囲 4, 5, 8, 9

請求の範囲 4, 5, 8 および 9 に示された以下の事項は、国際調査報告で示したいずれの文献にも記載されておらず、また、当業者にとって自明のものでもない。

(請求の範囲 4) ザッピングモード期間中に、選択されたサービスに関わらず、全てのサービスのバーストを受信してバッファを常に更新すること。

(請求の範囲 5) チャンネル番号ボタンを操作したときに、最後に受信したサービスでバッファを更新するとともに、チャンネルアップダウンボタンを操作したときに、選択されたサービスのバーストデータの受信を待って、ザッピング開始前に選択されていたサービスのデータを継続してバッファリングすること。

(請求の範囲 8) バーストデータを構成する複数のセクションの各々に、次のバーストデータを受信するまでの時間を示した情報が含まれており、これらの情報に基づいて、次のバーストデータを受信するまでの時間を補正すること。

(請求の範囲 9) 伝送装置から伝送された、第 1 のストリームの再生時刻情報と、第 2 のストリームの再生時刻情報との差を示した情報に基づいて、第 1 のストリームの再生時刻を補正すること。

よって、請求の範囲 4, 5, 8 および 9 は、新規性および進歩性を有する。